

職員による自己評価

A環境面

利用定員に対しての活動スペースは個別の活動スペースをパーティション等で区切り確保しているが個々のスペースは広いとは言えない。既存のマンションの1室で行なっている為、段差は無いがトイレ・洗面所も狭くバリアフリー化はされていない。

B児童への支援内容

計画は立てているが、実際に支援に生かされているかは微妙。活動内容は、個々の能力・特性・趣向を取り入れ提供しその中に季節を感じて貰えるよう工作・調理等を入れている。支援の振り返りは、送迎の兼ね合いで全員集まって行う事は出来ていない。日誌に関しては、活動内容・本人の様子等を盛り込み概ねしっかり書いていると思う。計画の見直しに関しては、個々の成長に合わせて出来ているとは言えない。

C関係機関との連携

カンファ等に参加し関係機関との情報の共有はしているが、まだまだ不十分である。

D保護者への説明責任・信頼関係

保護者への引継ぎは、送迎時に出来る限り詳細に伝えられるように配慮している。会報を月に一度発行し予定等を掲載

E非常対応

マニュアルを作成し避難訓練を実施しスタッフの役割・動き等を確認し非常時に機能出来る様にした。

保護者による評価

A環境面

活動スペースに関しては、個々にスペースが確保されている為、問題無いと思われる。スタッフの配置に関しては、人数は問題無いが、専門性に関しては、疑問。設備・バリアフリー化は、不十分である。

B児童への支援内容

子どもと保護者のニーズは計画に反映出来ているといった意見が多い中、子どもは日々成長しているのに年に1度の計画の見直しは少ないのではといった意見もある。季節に合った調理や工作など飽きない工夫はされている。障がいの無い子どもとの交流は無くて良い。午前日課や長期休みの際にお弁当持参で午前から利用出来ると良い。

C事業所からの情報発信

支援の内容や事務的な内容の説明は問題無いが、日々の子どもの活動の様子は送迎時の口頭でのみの引継ぎだけでは無く連絡帳があった方が良いとの意見がある。

D非常対応

緊急対応マニュアルやその他マニュアルは、実際に見た事が無いので分からないとの意見あり。

事業所内での分析

【共通点】

活動スペースに関しては、個々のスペースは確保されているが広さに関しては、不十分である。活動に関しては、個々の能力・特性・趣向を取り入れ提供しその中に季節を感じて貰えるよう工作・調理等を入れ固定化しない様にしている。支援計画は、ニーズを盛り込み作成はされているが、日々の支援にどれだけ生かされているかは、疑問。非常対応について、マニュアルは整備されているが、非常時にしっかり機能されるかが不安。

【相違点】

保護者：日頃の子どもの過ごしや活動の様子の引継ぎが送迎時の口頭でのやりとりだけでは不十分である。事業所の支援に関しては、満足しているが、学校が半日授業の日や長期休みの時に午前中から利用出来ると良い。

支援者：日頃の子どもの過ごしや活動の様子の引継ぎは、短い時間ではあるが、的確に伝える事が出来た。療育を目的にすると、子どもの集中力等を踏まえて利用時間に関しては、適した利用時間では無いか。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・個別な活動スペースを設ける事により活動に集中する事が出来る。
- ・日々、個別のスケジュール・活動内容を組み立て、能力や興味・関心・個性に合わせた流れを作り、子どもに見通しを持って活動に取り組める様に努めている。
- ・担当制にする事により、子どもが困った時等常に近くにスタッフがいてフォロー出来る状態を作っている。
- ・職員配置についても日々標準より多めに配置している為、個別の対応が出来る。
- ・意図的に半日のみの短時間で療育を行なっている為、子ども達が比較的集中して活動に取り組める。

事業所の改善点

- ・最近放デイがかなりの勢いで増え続ける中、居場所作り事業から、約10年事業を運営し、古株ではあるが、それが災いして、以前からのやり方を守るあまり保守的になり、現在のニーズにそぐわず、新規利用児の獲得が難しい状況になってきている。
- ・送迎時の引継ぎだけでは不十分との声があり、必要な方には導入を検討。
- ・個別支援級の子どもの利用も増え、送迎範囲も広がり、添乗員の確保が難しい。
- ・現在の放デイは、保護者のレスパイトとしてのサービス色が濃くなっており、現在半日のみのサービスを行なっているが多くの保護者から時間延長を求められている。

事業所の改善への取り組み

保護者のニーズを整理すると、①これまで、原則週1日利用をお願いしていたが、「複数日の利用」を可能とする。(新規利用児は、除く。定員を考え、要相談となる場合はある。)②新規利用児については、1年間2時間利用でお願いしていたが、「3か月間」2時間利用に改善。③学校がイレギュラーで早帰りになる際も「昼食を食べた」ことを条件に早い時間からの受け入れを可能とする等実践し始めている。

また、今後は、①連絡帳の導入を検討。(全員では無く、必要な方のみ：連絡帳を書く時間が必要となり、その時間子ども達の支援が手薄になってしまう事に懸念する保護者もいる為)②個別プログラムの充実化(本人に合った活動を模索し提供していく。③午前日課や土曜日・長期休暇日も試行的に弁当持参にて時間延長を検討することとしている。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所と保護者のアンケートを集計させて頂き、事業所側の課題・事業所が出来ていると思われていた事が保護者にとっては、出来ていないと感じている実情が分かった。放デイが増え続けている中、古株として古くからのやり方を守ってきたが、現在の保護者からのニーズを真意に受け入れつつ、ぼっこぼこの特徴を残しつつ、変えられる部分は、少しでも変えて利用児・保護者からの満足度を上げる努力をしないといけないと感じた。保護者の方も面と向かってはなかなか言いにくい部分もアンケートをする事で言える部分もあると思うので今後も実りのあるアンケートとして活用していきたい。